

ぐんまで頑張る職業人の熱意をレポート!

柴崎龍吾の課外授業

Vol.40

うすい学園代表取締役の柴崎龍吾が街に飛び出して、元気に働く人にインタビュー。子どもたちのために、職業の多様性や働くことの意味を毎月レポートしていきます!



エフエム群馬にてインタビュー内容を放送中! 毎週月曜 ワイド番組「ユウガチャ!」内 16:41頃~



うすい学園代表取締役 柴崎龍吾

大学在学中に劇団を主宰し、卒業後は放送作家として活動。1975年に個人塾「横川学習塾」を開校し、以降、うすい学園を展開。子育てや教育に関する著書多数、ラジオ番組出演中。

次の世代に伝えられる 群馬県発の事業を目指して

柴崎 今回は、地域で人気のパン屋さんとおフィスをつなぐ事業を展開している、パンフォーユーの代表 矢野健太さんにお話を伺います。なんだか面白そうなお仕事ですが、まずは、どういうお仕事なのか教えてください。

矢野 私たちは、地域で人気のパン屋さんと提携し、冷凍したパンを主にオフィスへお届けする事業をしています。

柴崎 自社のパンではなく、まちのパン屋さんの商品を届けるというのは、面白い発想ですね。しかも冷凍なんですね。

矢野 はい。冷凍なので、余分な保存料や添加物を使っていないパンをお届けできます。しかも、オフィスの冷蔵庫って、冷凍庫が空いている場合がとて多いんです。

す。そこなら、冷凍パンを入れて保存しておくことができる。お代は食べた分だけ。お昼ごはんとしてはもちろんですが、ちょっと小腹の空いたときや、休憩時間にも食べられるので、社員への福利厚生の一環として、導入なさってくださいる企業が増えています。

柴崎 なるほど。福利厚生にいいですね。導入している企業は県内ですか?

矢野 今は都内が多いですね。大手不動産会社や通信事業者、IT企業など幅広くご利用いただいています。最近ではWEBを見たと、秋田県や佐賀県など遠方の企業からも問い合わせをいただいています。ちなみに、提携しているパン屋さんには県内が8割ですが、栃木県や神奈川県

パン屋さんもあります。柴崎 いろいろなお店のパンが楽しめるっていうのもいいですね。こうしたビジネスモデルは、日本はもちろん、世界でも類を見ないことですが、矢野さんはもともとパン業界にいたのですか?

矢野 いえ、大学を卒業して就職したのは広告会社の電通でした。中部支社で交通広告の担当をしていました。やりがいがありました。が、忙しく勤めるなかで、自分は何がしたいのかと自問するようになったんです。3年勤めて都内の教育系ベンチャーに転職して、その後、桐生市のNPO法人を経て、起業しました。

柴崎 起業のきっかけは何だったのでしょうか?

矢野 故郷である群馬県で良い仕事をつくり、それを次の世代を担う子どもたちに伝えたいという思いがありました。都内に出なくても、県内で最前線の仕事ができる。昔のアメリカのシリコンバレーのように。それは今でも持っている大切な夢ですね。そう考えた時、1000年先も続く仕事って、食だと思ったんです。なかでもパンは、この少子高齢化の時代でも伸びている市場だったので挑戦したいと思いました。実は起業後、今の事業モデルに転換してまだ1年未満なんです。今後はもっとスピードを上げて、事業を広げていきたいですね。

柴崎 強い信念を持って、群馬県発の新サービスを生み出した矢野さん。今後は、パンを置いてくれるオフィスと、提携するパン屋さんをもっと増やし、日本全国のパンが気軽に楽しめたり、例えばアレルギーに配慮したパンなども取り扱っていきなさいと思いを話してくれました。ますますの事業拡大が楽しみです。それではまた次回!

今月の職業人

株式会社パンフォーユー 代表取締役 矢野健太さん



▲1989年生まれ。太田市数塚出身。桐生高校から京都大学へ進学し、電通へ入社。退職後、都内の教育系ベンチャー企業や桐生市のNPO法人事務局長を経て、桐生市でパンフォーユーを起業した
◀当初はオーダーメイドのパンを販売していたが、2018年春に事業転換。利用者からの評判は予想以上で、意外にも、わざわざパンを買いに出ない20~30代の男性からも支持されているのだと笑う

